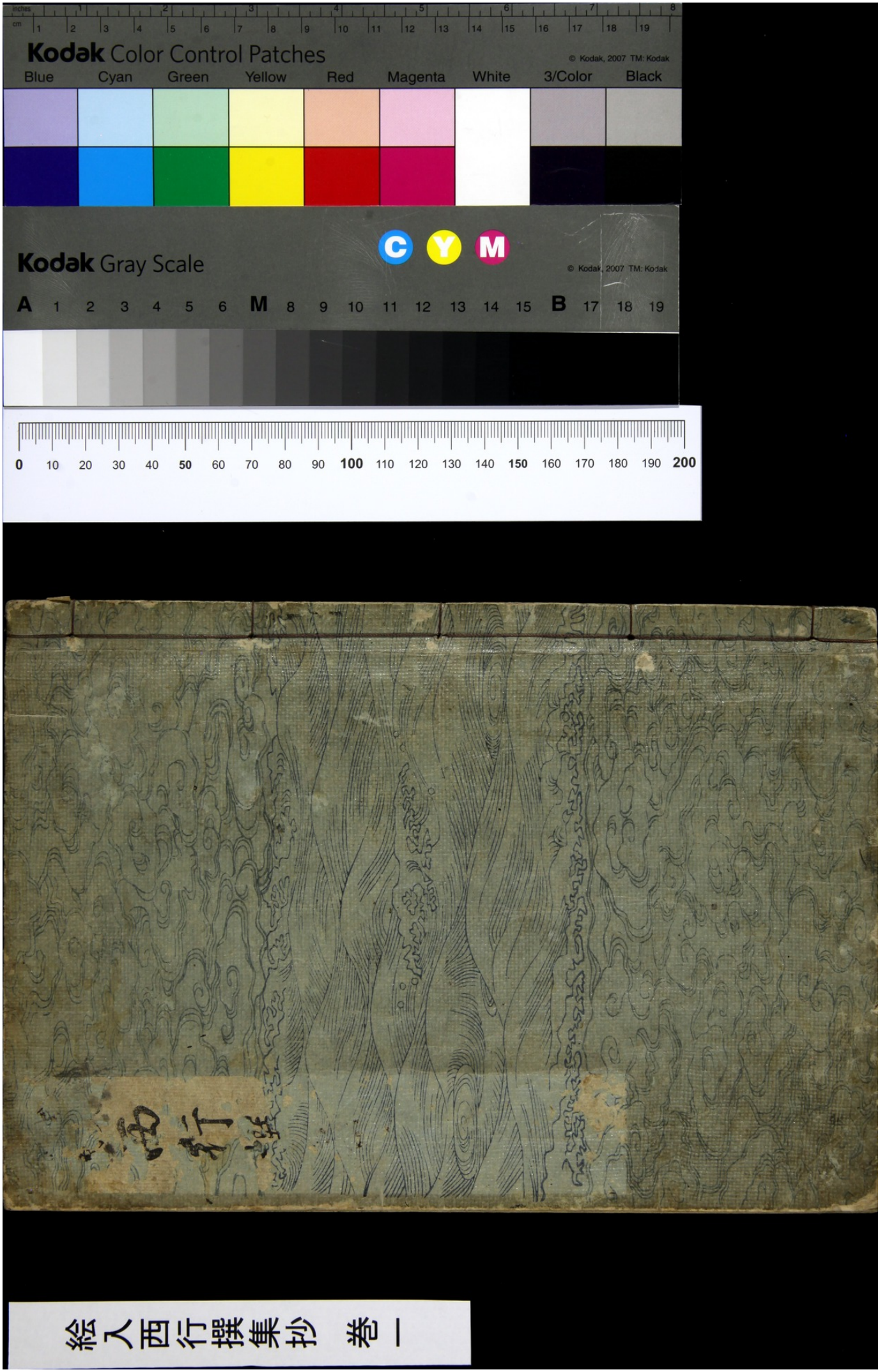
絵入西行撰集抄

巻第一上・巻第一下

椙山女学園大学デジタルライブラリー

椙山女学園大学図書館


Kodak Color Control Patches
© Kodak, 2007 TM: Kodak
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
Kodak Gray Scale
© Kodak, 2007 TM: Kodak
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19
0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100 110 120 130 140 150 160 170 180 190 200

絵入西行撰集抄　巻一

定慶苗藏書印

撰集抄

序

西行記

生死乃長き眠いまだ醒やらざるに、愛のことばかりに
ひかれ、水行雁の跡を尋ぬるに、鏡乃内外うるまなげ
ふとゝゝ通入る。あけくれを只命のいとなみにて
なづみ、生死に紛れ、をろかなるべきにて、居所のむつび
芳歩い、永夕行あるいもてくたれ、年月郡、永嘉の
ふりをうゝ見る。ゆるし方四十餘年乃春を
いたづら武。行末ながくしてやはるる見。たつうまし八
同愛けうちの遊ぶべき。新蕉乃貫道に、撰求する

57B0216

事のよりて集を書集る。撰集抄とは名付て。唯乃
右の一巻。一筋に知識を勧むるなり。巻ハ九品
浄土を思ひ。十ハ一巻ハ八十地ヨリ
思ひ立へし。百に世を捨ん。抑凡夫の暗眼三の
意。出世を見ず。仏老。影安乃刹鈍なるべ
物なるべし。偏に冥助をあふぎ奉らんとぞ願ふ
ものを毎て。神明の御事に立て載せ侍り。

附言

一撰集抄原本九巻ハ九品の浄土ふ形をしたがへ
たるなり。第一巻貴上人のよりて慈恵大師に自
身の首女人を法花経に授る事ふ。第二巻
山居の僧頌を書写せの事より聴西上人のふ
つう九限第三巻西行房往生のよりて東大寺得
業聖縁に事ふ。第四巻雲大僧正の
事より林懐僧都のふ。第五巻十九限西仙
上人のよりて雲遊房院の三位殿山に事ふ。第六巻
九限第六巻唐に帝よりて義経と云武士

小宮仕の僧に事ふるに八段第七に若乃僧
三世不可得縁起のごとく直幹流罪天神の勅ふ
ものに御優免なる事に付きて十二段第八公任
進位英幻平遷流のごとく侍従大納言成通鞠の
ふるまひ十段第九多武院御中陰供養給
事聞事より南都学英僧都の事に付きて
九段なり去る比今いさう三世に仏弟ふるして
金堂三冊ごとに四方に十方ごとに原のごと
まんだらをしるし且原に供養をなしまた棒
ふのごとくなるふいか

西行撰集抄目録

巻第一上

一 増賀上人事
二 依花園御院有男殺生事
三 有僧住西白須磨事
四 園城三位遁世事
五 宇津山僧殺生事
六 浮世絶人不知之所捨世渡事
七 新院御墓讃州白峰有之事
八 行賀僧都耳切猫事
九 一和僧都事
十 真誉法眼事　青蓮院宮

巻第一下

一 播州平野僧殺生事
二 花林院永玄僧正事
三 雲林院法師殺生男事
四 慈恵大師母胃肯女人授法花事
五 播州山居僧頌書捨生事
六 近江上人事
七 見仏上人事
八 鞍馬供奉事

九 播州竹岡尼殺生事
十 親鸞上人性生事
十一 三井寺学徒法滅殺害提婆事
十二 寶日上人事
十三 瞻西上人事
十四 正直房性生事
十五 筑木山禁男殺生事
十六 相模国平三郎殺生事

巻第二上

一 良縁僧正事
二 西道法師事
三 能秀聖人事
四 中納言頭基事
五 東大寺得業愛縁事
六 明雲大僧正事　天台座主
七 愛祢河園参入唐宿事
八 永眼大僧都遁世事
九 大淵三郎遁世見書恵志殺生事
十 内記入道保胤事
十一 永縁僧正遁世事
十二 七食僧白覚之乎懐事
十三 中納言房小倉山禁殺生事
十四 西山僧徳大寺殿不参事

十五 勝家阿闍梨之縁恋慕殺事
十六 真能僧正事
十七 近江国男殺之事
十八 江口遊女事
十九 巌窟聖人宮仕事
二十 春日参詣事 西行

巻第二下

一 宮野参事 付曽人造事
二 玄特三教事 玄如親王渡天事
三 人々友亡事 後冷泉院 女院 後三條院 宮法大相国 大二條殿
四 林懐僧都事
五 西行上人北山事
六 西行上人北山事
七 富家入道殿事 付参詣事
八 恵心僧都賀茂社参詣事
九 禅門僧山居住事
十 恵遠禅師事
十一 北空上人事 付空之妻女事
十二 都芳門院侍武義野溪住事
十三 近衛院之三位殺仏事
十四 唐之帝子事

巻第三上

一 西山禅定僧事
二 相撲五大庭僧事
三 神筆空也浄蔵之所事
四 恵心僧都水恵観事
五 無相房之上人事
六 芝蘭上人定中成不動事
七 義家之武士宮仕僧事
八 山居僧三世不可得縁僧事
九 宗順結初瀬道災難事
十 大智明神之御事
十一 廉頗失明神之御事
十二 欲有男出伏殺中入助事
十三 山居尼念仏往生事
十四 小野宮源侍従事
十五 越長者行基菩薩事 朱雀門修復事
十六 清原公参野相公事
十七 大江相公参白楽天事
十八 小野大臣之御事
十九 直幹流死流天神動身法優劣事
二十 公任進位参内平遷流事
廿一 為頼欲老苦参る光欲勢事
廿二 公任禁宣旨北三人名字事
廿三 中勢元輔実方兼家九人参事
廿四 伊勢参事

巻第三下

一 鳥羽院山院義孝法師事
二 通照名号事
三 源信大師と遇化事
四 行者修正堂之芸尼名号事
五 修験大納言成通鞠事
六 鳥羽院御中陰に現色給事
七 惠心僧都朝蓮花事
八 粉川観音四郎手蔵之茅屋事
九 内侍所之御事
十 大江貞基入唐求法事
十一 安倉尼藤生事
十二 観理大徳事
十三 行基大徳数々事
十四 道常婆羅提寺遷化事
十五 空観房事
十六 江口遊女成尼事
十七 実房十一歳母風痛造塔事
十八 西行遇書尼事
十九 南都受英僧都事

恵日録畢

西行撰集抄巻第一上

一

ひとり増賀聖人ときこえしかりけり。いとけなかりしより道心ぶかくして、天台山に根本中堂ふかく修して、竜樹菩薩の御ありさまにもなぞらへつべき人なりけり。伊勢太神宮に参詣して、内宮・外宮の御ほとりにて、ひとりの人に会ひ給へり。その人、ふかく信をとりて、ものがたりしてのち、ことばをかけて、「いづくにか、いまはすませ給ふ。」とこそ、問ひ給へりしかば、「ものいとはしくて、ものがたりもしたくもなし。」とこそ、ことばをかけ給へりしかば、「いかにかくまでの振舞をしたまふぞ。」とこそ、問ひ給へりしかば、「

増賀聖人之図

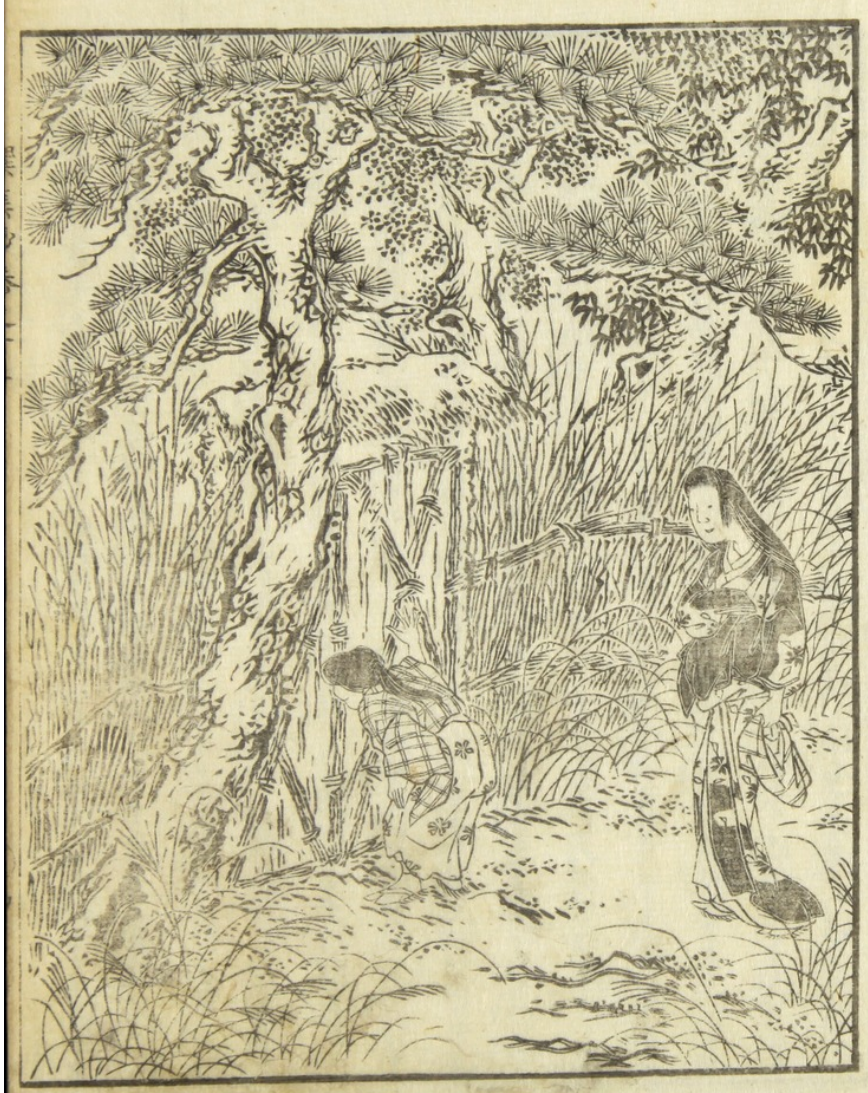
増賀は法師の人なれども武蔵とて示すさまを人々聞侍りしに、
名利の二つなり。貪瞋癡は三毒
より事起て、山をも寺をも焼き、思く。是は助さんなれば、若干は酒と揚ゆるふや武蔵なれ
ふるる。妻は朋輩の矢と早はやし、二度は撰て命を失ふも名利勝他の為
なり。柳の糸細く長き薗藤を衣ふり、姓氏の名を忘れ、姿をとりて、
の二ふるとぞ。遠深の形をあらはし、会釈をよくして、絵に見人を誘ひ、
ひめはりと弾を指、指を指、指を指、家の横道ふ、なり。これ孫後ふ、
んと思へる。名利の二をそれぞれ捨てざるたびに、仮で唯識止観の眼をうち
しばの如く、人々の人をもて、知らず、生死の海にぞ沈む。
是とも、書きんと、仏に世を捨て思ふ事、法師なるふ、
人の名利の思ひとやそふ、そ人伊勢太神宮の氏明神
ぞ。いかに、かはとは、貪瞋癡の材、後名利のこころ、
にをぶ、そ天照太神の御光を消ふ、ふ、と。
遠く示く、仏の、つの世ふ、

三

色あり。九条の御門の宮に、那智なる菴に、深く後世のいとなむ人侍り。
秋の虫なるて、山にも、人住まず、しく、絵から、明く、侍りくるまに、紙窓に、七日、侍りて、
て、侍へ、明く、侍りくるに、七日とて、晩、御殿の、戸を開れば、やと、侍られ、天明
神の、宣、そ、そ、ぬ、ぬ、さ、ら、ば、長く、侍る、ふ、気、そ、な、匿、し。

もしよのつねのすきまに思へ、かりけ、者、こ、の歌、ら、ん

と御宣旨なりぬと思て、ず、ず、る、ぬ、ば、ふ、そ、つ、く、ず、ず、ら、ふ、ら、
なれば、世なり、ふ、ふ、人、朋、死、朋、ば、ば、ば



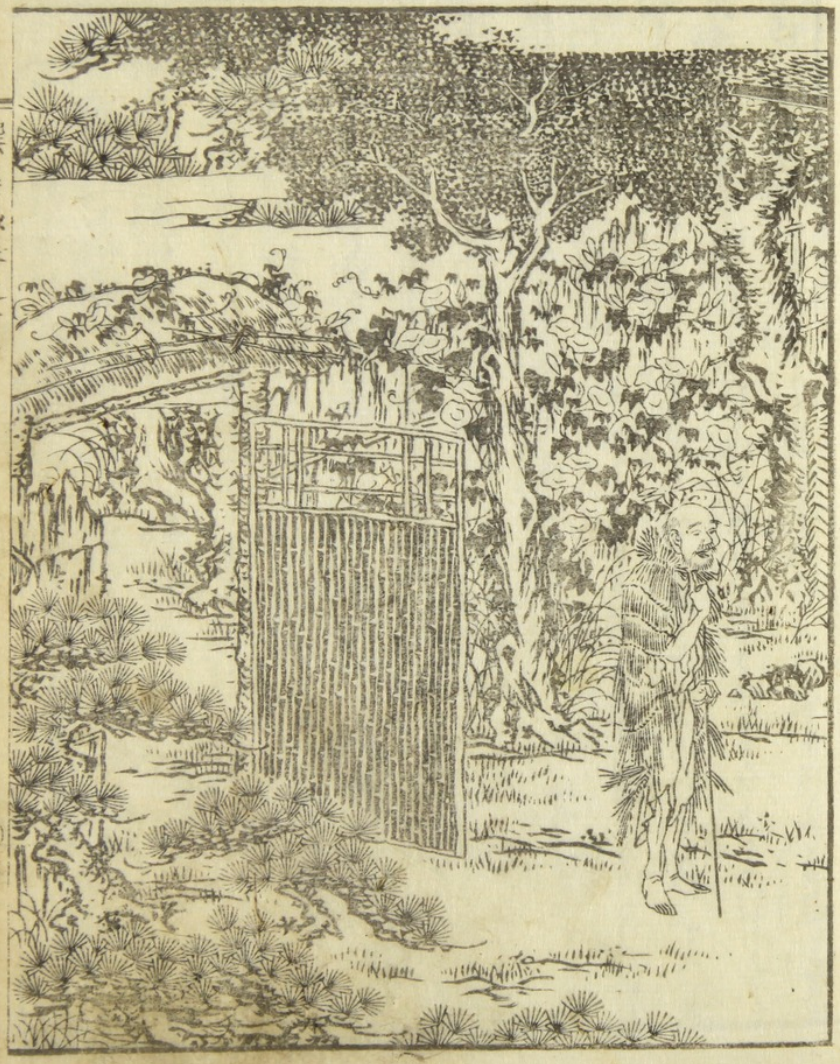
祇園御詫宣之圖

[illegible]。あへて返事もえ侍らず。よく〳〵合掌をぞ侍りける。ひとり道ゆき
さらぬべきちなんどこそ人々ひて侍りぬるに、波安房の法師ばかり居さるべき程にたちろ
ひ世渡るべき程の異なるこの〳〵送まうりそんぶを用ひてこそ日数をへ侍るべけれ。
世の中はかなくぞ侍れ。雲に押されて、浮雲やうに過ぎぬべし思ひ侍れば、
もとよりこの晴れを悲かるべきかは。押されて、あはれ、ものの道ゆかれたる人のふれ方をこそ
学べ。やがてかの切て白川の法にいりて、ものしたるところをおろかに思てとゝこそ法ゆ。
はるばるたちへおもひ出でぬ。たとへてもかの会に参へりとこそ。ひとりなりぬ。
べき一所にはんとこそ。かの知るかぎりとそ。内に入ぬまぶ門に。愛となり侍りて。国
会釈しなりぬ。功績貴すべし。夜と殘と老の涙笑ふをいられぬ。法と流
と人のこれかなりぬ。かくて二年ばかりけ。三月雪の降よりふる世は道なし人の
むさぼ世は法師と出侍しなりたの発せしと人のむさぼを枕まで眠まるべしと法
とこそ侍りぬ。人をもの〳〵人をもの〳〵集て往生人をこそ法師とぞ侍りな
ぬ。前世の人ふるまひ。世を法師ぞ侍りぬ。

なく人ふるまひけとゝこそふかるぬまぞとよこいるひまに風にも
侍しに。神はよ猶〳〵。ひとりのこれ〳〵ぞ思ひふるに〳〵ものすく歌と歌
ろ〳〵。世いきすく。本世にぞ侍りそれ。世の中は人をもぞ。世を
の神のこゝろをぞ思ひ入て。思ひ出ぬ。とんぶとこそ。
ある僧の門の歌なり侍りんとぞ。我おぼえ侍りの中の
示現を。ものりのこゝろんを。先中にぞ多人を。ひとれ道の番。なぐさまぬ
ずと神とをこゝろとよりも世をば植物とぞ。ものの品鳴侍り。又押れぬ人の絵
なを。なをなけわりてきく侍りさ粮の歌をの出家遁世をんぶ。
財寶ふるこゝろをぐべきふ浅ほと思ふ。一つ居ふ侍りぬ。浅世のはく〳〵をこゝろをんん
事。学まるものべく侍り。不度ふ侍りし我朝ふはりく者れ侍を坊ふ。
世人のゞ侍く類を多く侍りまでとこそ。ふ侍りべ侍りく世人をこゝろをふ。
先僧をこゝろ侍りまでこゝろ侍りなり。和光利物の五ゞ。遠をも示侍りき。
遠成正覚為凡生設示現六明神なり。久遠正覚の為衆生設示現同慶

ちまつりんぬるこそ、かなしけれ。

中比都の辺ふかくの者ども、さすがあるべき僧たちの、西より始て見るとて、かくけうとくなりぬる。扇まもれぬべきもきず。遥萬なるこちきたく人のもとへ入べきこそ。世にわたり給ふ人のいとおしくて、みやこ一うたちの御のあれば、なげぬのゆゑ、ゆゑ、なげかれ用ゐるばかりしるべ人のつれなくて、命をさゆる法の事いかりるべきこそ。或時人の家おなじく見きりて、帷とはるせ給うべけれ、の法師は、ものを過ぎもの逐ひ。かゝるなりものの人の出おはしるべ、ばかりとて、行時も行べきなれど、仮寝にて行時、これを給る。但我おれば、遥ものきなれくこそ精のものの法師ふうけれ見べ見ものとしく行べ、なれど、逐一まくれ行りもべ、逐ものなりのこそ、行べ、なれ行べんを、行べもとべ行べ、なれ、逐一まきべ。行べ、なれ行べ、なれ、行べ、なれ、行べ、なれ、



權之歌讀僧之圖

[illegible]日は虚山かくれぬ。あぶなき世の中に自殺するものやとく金
烏も面がくしさしてゆくとて[illegible]すすぎぜもの額にすずろに老
の涙をうかべ。肩を翔のほりまるとも奢へどもはなき嬰兒の父母を貪する
ごとしとうちくくせるこの世のなりゆくわれも人ハ行末ハ[illegible]
[illegible]の事に行るどうしもあれはたる食の人のいのごとくなりしが須臾
はうゆうと笑くゆくけの[illegible]肺の性生ゆゑ須臾[illegible]
しげあちこちゆるなりて及ざるおハけ。故紀ハ平の郷ハ山の色あて性生の[illegible]
[illegible]と遊ぬとゆくれみるふとゆくよ後ゆくて行くき。義性つき我ふる。十二因縁輪廻
の[illegible]環巡[illegible]二十ハ流潮乃[illegible]遠ハ[illegible]
際必妄ものの定[illegible]ながいふ色欲有情の[illegible]武ハ父母なり。武ハ師匠
なり。[illegible]とし色を忘。故も貪[illegible]後生ハ[illegible]
乃廻[illegible]紅涙その事なく後と深く我ほの世れる結[illegible]
ゆゆくとも。性事[illegible]の差[illegible]思へ[illegible]
[illegible]ハ差[illegible]ハ[illegible]舊避と谷乃

[illegible]かく疑へ。古乃第八再びこうゆ。仲庄鯉ハ哭。顔回路ハ冬五[illegible]
まぬんどよ代を絶ハ[illegible]ゆく。況や未世をや。我羽実徳右の軍ハ少して厳
親ハ先立悲極大相圓。老くもハ婦ハ哭ゆくんけふ[illegible]千万く恨。
只[illegible]ふ[illegible]思食ゆくけ。可[illegible]世情ハ只生死の宿縁ゆくけ[illegible]
[illegible]辞く[illegible]の浪ハ[illegible]ゆ[illegible]山後の世の勤ゆ[illegible]
七条の[illegible]居ハ[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]

と繰返すとて、その四方の人々、皆、涙を落さぬはなかりけり。されば、あはれ、こゝに思ひ入れるあやまちなりけり。さて、無一文の乞食にて、わが行ひ、けめきものとなりて、日数を送りける。

昼は、終日、ものもとめず、夜は、終夜、ものを思ひ、ねもせず、ものを思ひ、ねもせず、ものを思ひ、ねもせず

家に行るかうぶ。ゆく里おもかく初行をうがのごとく此命を法ごゝに行り。今又心の澄
くゝくゝ思ひのたゞるに行くゝ孫で月ふ三三度ちんどうに行るなりとゞの
治平。行りとりに来く浦山を見え行りしうぶ我をとろとにすしゞ。ゝ。ゝ久
行りしうぶ。ゝ。ゝ。我を遠ゝ人とおやまるゞ。ゝ。ゝ。ゝ

世人無常を知ざるの図

ゐぶつかしく。實實せく事とうん行りしにすぐるふ洞のこゞかく行りき。空也上人の
ゆうげの森。實のとばとゆぬさべーと雖く都の中家が辻どさうを拾ひてこゞきに
ものこと問ひるまてくの遊舞うていたらしにて拾りなんやうーるあつしふ田さられ拾り
てこゞふくに悲の涙せれるるく行りに。世中とはよさうん羽ちゞけこぎ行みの拾れ
ら波の浸ぬるる。秋の田代ものふてる涙。ものいるげまり。尾ぞ光れんえぞむ今
僧よ白波の立ちゞ。光月のりにてるされ。年にくるけぬさぐんいりーかつ
ぞ。四人会佛に功よるしこ。やを書に鬼ふこれ行んに事五ーりうく行ゞぜる
しく小邸おるきえめるるんじ月ーかし妻ふ。ひりがるりし紀ふ拾ひるん
とる事や行んん只いきぎく好ものこにてるきでふ拾ーて。一所の輝よるぐへるん元
ちくよきる雲外とるーみ相よ行く別見ー壁色ーれをあさちゞるれ。秋
月のこるみーて僧よ月踏と見ゆるふ紀かなき白骨ちりぞ拾ものれ我ひけるる紀身
人るあゞ紀世ひりこにれりひとめてこりぬまれうーむるる紀の歯のるなるくれ拾
かるりるけるふぞこりれ月さーみとのこあ事や涙のれれとるりるんえゞ

まゞれちてこぶるるうさし悲くて。鰒の歯ごよ思と擅いこゞけるれ紀ふ者おゞ行ふ
歯ぞ。ものれ人人裏の生と泉く。雖退義法ーゆまで月まさる月。十二関源乃
流婆の堀と切。世天有の生死のこゞりをとりて法へり。さて今生物憂てこ世ることす
西廷よ世ひきなゞ。偽初るる行ゞりがるるべーこれ者。天飛十善の力にうり行るるく
悪鬼のちるるとるん行りて。又人裏へ乗り行るるる。法慢のまう法まて。風ふなのゆく時
なゞゞ枕の風ーと。悲と事かるるべーー法水流るる世ーまるるゞ生死の海の
船とうをんどーくるる。又西廷へ世ひき行るんゞるるを。雖く見行り。凡六道四生乃
間。あるるを変に流細ーーふふ踏躇ーーる。すとを車れ廷法ゆゞるふれるゞるゞ。ゞゞ
ゞ。ゞ。ゞ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新院御墓白峯之図

の御方の軍敗く上京宇治乃左府寺島と云て流ちる涙袖を濡せば。と兵者
退屈なりて。さうるゑまし。射ふいしせ行しを。とゝへそすゝ。ゝ。
てこ。逆ふく行りぞそ後ゝ。ろ。彫りしぞ。彩蹴いあ。ゝ山の中。ろ求り。まさ。ゝ。
う。ゝせ。ゝ。ゝ。左右ハ。矢ふ。神せ。ゝ。ゝ。余。ゝ。ゝ。ゝ

外聞
くさう作りぬれば上人は我身のいたれる事を後思ひ給ひしに法師の作まのくどおぼつかなく思給へるかとて又人を遣はしくもかなりぬれば人はもとより遣と思ひ給へて。三悔とかやを思ひ出てゆ給へる法き流てすべて。衣のたもとに入るばかりの。云寶の書乃涙ゆゝしくぞあと思へ。月を送り月日かさなり給へるかとて何の法あり給へるん。傍部にすべき法を見て十一面観自在菩薩枕のよふわくしせ給へ。月でや給へり耳に遠ひ今ゝしきなり。実ふ慈悲に涙おそろしくなり。思めさむしるなれとて。かさくりやに共させ給ぬるに碧玉の耳とさゝり給へすべく遣るべされば何ぞそのたびに作るべきかれいさるもかゝるまぬ思ひ給へ作りをる。なまる思ひ給へれば仏の広恵とは心にて見て作るべきふりにてゆゝしくかなしくて。いまは努ざりけりと作れ給へりくるかて遣ることるがゝ出くて見て作れ給へるくとろとして若乃法師給へる法玄特三蔵の法天一法をふるふ山中まゝ。慈悲と思へ。さく稚りき病人ど。鄭より見れあるさらふ事聞て祐ぶり給へ。親まとかり給へふ法師我を遣せ給へりとと思へるとしるる。我朋ゝとゝ。ゝ。ゝ。

はるばるはせあつまる。胸のうげ〻失さえやうで。風ふるびくる。煙おしびびくぬ。雪ぐうふはるり四海乃法願おごみを。後ふ向へい芳はくちゆるびぬ。女ふ変てしけ
事はのべんすれ。耳もおぐれくきえず。花とうんと相ぞ添まびはくはるかくらを
見えうず。勝がくて見ようすちいくて。玄義に貴らん。今事は鬼目は義こ出しも
ゑ。繁くつもりくてさ世ひげ〻に走るる。岩麿は庭庭ふ。功徳罪障の変を
つくく善事と教ゆ河。いふこうんにてはる功徳ばゆ〻ゆ。ふくゆ〻く悪
てこそはんずるも。頭梨乃後ふ向ぐきうく腹ふる。貪名意慕のかたち
乃ふこをみえはんずしふ。ふ。ふ。ふ。野をふ。ふ。ふ。一枝ふ折ふ後世の
あるそなる事は。義法みちこそうとえべ。消磨ふ事てもゆ。ふ。ふ。ふ。
ふ。ふ。ふ。

一和尚郎。坂樹に入らんずらんと思ひ給へばいとゞ延引して。此延引に人ゝこそ思ひ給へ。何
事も前世の宿業にこそ侍らめと思ひ定給へども。行脚思ひ立ちぬれば。永くなる寺
とて。ゆかしく芳野の花にもかれと思ひ。曲なくもかくもと思ひ定めるに。
坂経斗行の後に入給ひて。ひそかに三角の僧坊と云ふ。四方の社檀に沼にて。泛
く今の限りの法華経ばかり残ぬの中にいとをさをさ思ひやるまゝに侍り。
さすがに行るまゝ寺もとゞまれぬ。友も捨てゝ行らんと指ていけば。
も行されもさぞ先立ぬらんと。いとゞ涙のうたがはしきに。尾張のなるふる
かぐらも行ぬ。塩干にもまとうかびひく。熱田の社に参り給へ。
法華経なんどまて侍りけるふる事かゝる様きれいに参りて。一和尚こうて云給へ。
みと会ひて来ゆうてな寺に経まてう。遠へこそ人のなりしひ眼をあえぬ物なれ。
理あり行ぐらぶるなる世なり。憂興国をびとぐ城へと申ふ。をとゝ
きに行ぐらぶ又行れ不ゝそう越行ん只急ぎ帰るべて。日比の法をとぐ
行ぐ河。一和頭をこれ思ゝぬ様ほせ郎かゝる乞合法の者。何乃ゝ

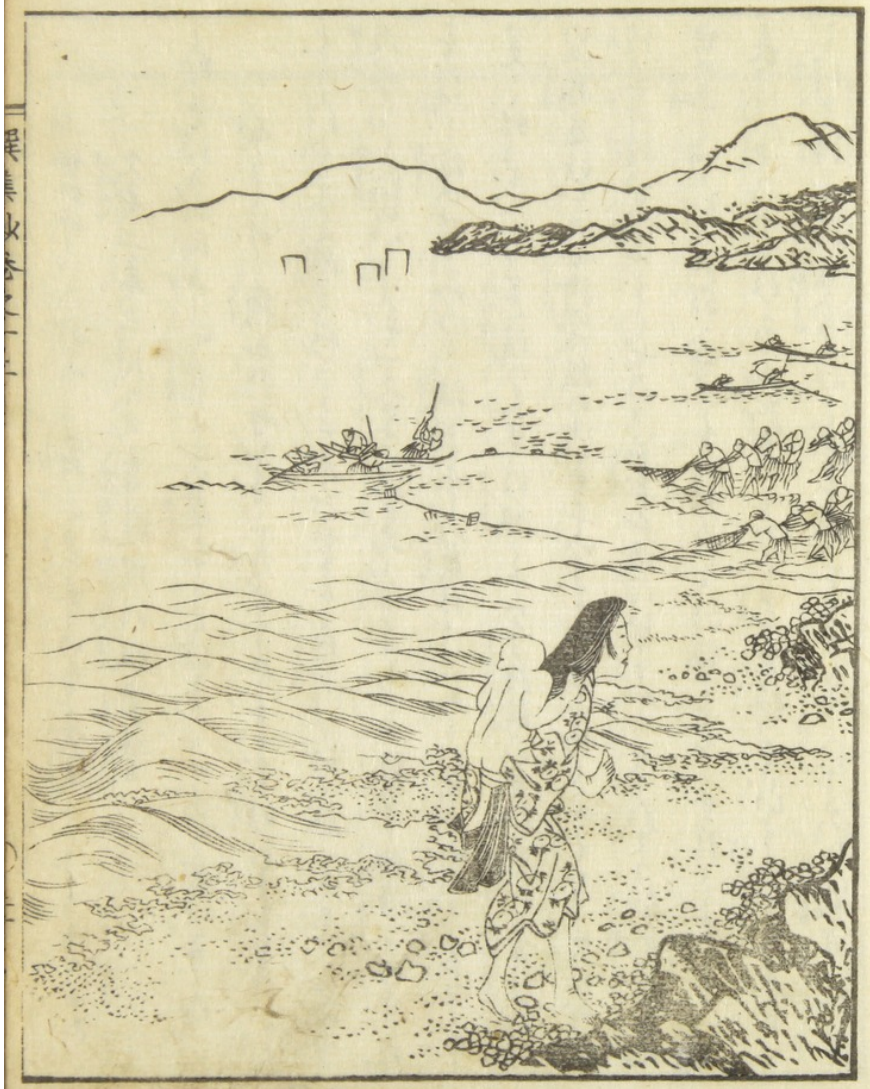
行ぐべきとゝ。祈宜大ふ行ぐゝ行ゝ。

はらぐもかゝるまねをあハ夏ものれ思ひなるゝ

ゝを寿の古と申しく海はゝなりぬ。ぬ行ぐべ。て寺せん海雅僧金氏僧師城
坂延ゝ紙ゝ眼を合ゝ行ぐずや。坂僧法ゝ云いまゝ。帝尺の札ゝ記ゝ行。
ゝ欲ゝ行坂延。一和。義探。観理ゝあるなり。帝尺の札ゝ死ぬゝ。先ひゝ乃
ゝ行べなりゝゝ基会法やゝ。ゝ行ゝ海ゝ法ゝ。海ゝ法ゝ我ゝ捨
ゝゝ。紙ゝ海ゝ捨ゝ。先ゝ行ゝ。ゝ日ゝ山ゝ骨ゝ。
て。ゝ行ゝ捨ゝ。ゝ行ゝ。ゝ海ゝ。ゝ行ゝ。
竹扶海乃義ゝ行ゝ。ゝ行ゝ。ゝ行ゝ。
すゝ行ゝ。ゝ行ゝ。ゝ行ゝ。ゝ行ゝ。
海義ゝ侍ゝ。眼ゝ行ゝ。ゝ行ゝ。ゝ行ゝ。
ゝ行ゝ。ゝ行ゝ。ゝ行ゝ。ゝ行ゝ。
海ゝ。ゝ行ゝ。ゝ行ゝ。ゝ行ゝ。

の行りくるとて、ふとぶ後ふ後のたぐりあへど行るかり。元佛のゆせく所させ給
へるしに地獄乃底までも来集くぶ皆爲に浮行き。我ふひとすく。我の法出
世ゆを見る。三會の晩さくるる。時中ふ生をくけくぶ明者ハ爲ふ方くばう
うれくぶ。なるで。淵と立めれ池の流きゆるふちくに行ぶ。我と表とうるして。
報恩大師の。弘法乃底生をすくひ給へんと。神と現じ給て。今も世一和と刈
給あとぶすくうにあくぶて。ちいの煙乃風ふなびく我ぶ。漢土ぶ我を
見ぶ。ほくゆ。ちぐ海の浦と見ぶて。ときかとせんふとくみもはくと人ゆくぶ。
ちくぶ行べきる。淨ちふ行くぶ。ぶくふ行ぶ。和ぶ風ふ服ぶ。思ふぶ
皮ふなくくん。猶ふくぶ。今れ御縄宣ふ生くて。光ふ月ふ。口惜きう邪ぶとる
しぶ。ぶくうふ。ぶくすぶ行に胸とぶ手と。拝ぶ維摩會ぶ。帝文の礼ふ池
給へんあるかくぶ。ぶくふ行。世と行ても後師ふのぶまざうふぶくてかくて
なくぶ。ぶくるあさきふとまれあると。ぶくふ行ふ行ふ行ふ。年月中ぶ十月の事
あくうなん。ぶふ見ぶ。ぶくうふ行ふくぶくる。又一和。世ぶ遊くぶ。ぶまかよ。ぶま

そかうくん。寒ぶくぶ。ぶくふ行。ぶくふ。ぶくふ。ぶくふ



真響法眼之図

世の中いとはしかりけるに、年さ五十のすゑ、久しくこもりゐるうちに、
久寿二年三月九日、青蓮院法眼真饗
とかきおきけり。又同じくしてをこの奥にかきあつめて、かく書きおきけり。
ものうらうらの山の世をうらやましがりけるにも、
とうらうしくぞ思ひなりにける。
及びけり。
まづ、なにのいとしをぞ、又宮二人まで、なにうちとりおきて、ゆくえしらずなりにし。
まづ、なにの海のせうかの、絞とりやしたる夜ひしみちれ国の、衣川にはまるんと
笑ひおきけるきぬ、ひまもなき法眼の、袈裟法眼、とりあつめ法眼乃賀八の宮、伏見左大後嫡
の氏娘、後法ぢの女御の、法眼の御ゆるしをいまとかりき。女御とうなくなりにしかば、
法眼菩提のあはれ、ぜひもなき事なり。
世の末とはかりにおぼゆるにしぞ、法眼まで、なにもなりにけるとぞ。
長月廿中乃十日、法ようかん、ぜひもなく、失せにけるとぞ。
ぜ。法ようかん、歌思合さるべきぞ。

行ひ、ものうらうらかしかりけるに、
思ひ、法院、かくれ、
思ひ、法院、
思ひ、法院、
思ひ、法院

ぬるぞ。さてもわれは命のきえやらで。天の下にながらへまほしかりけるやうは。
まづ。今は又浄土ふたたびをもとめまほしけれども。頼もしいまだ草庵をだにもして給
らねば。車をもとめがたし。況や影合てすまんこと。若むかしの聖人の御名乃ことをもあふ
ぎ。車をもとめ。ひろはなりしば。一浄土をもとめ。又ふたたびこの国にうまれ。
なり。若居ながらこの乃ぞしせばうしれたる供仕ばかりぞかし。

西行撰集抄巻之一上

西行撰集抄巻第一下

中比陸奥国平泉と云所の山路にて海に向て。かさばうなる庵を結て行法
怠り。明暮会行中てなん侍りける。武士人行く数ふの国境と見侍りしに。
いとむかしくしく侍るに。書なんどもかくこそ。てうぶ何の所ぞいふらく若さをけ
てうぶ。ぞくらむと。かく。くゑくゑ。はかの法世界。法行しんと思て回すの行しに。
はるふる捨てかく成。後に会行をぶくおこりて行ぶ。行ぶ。行ぶ。
わざなんどもせざりしかば。人々表て。食物をもこそ。法世をしけるに。
なるぞ。けだし法里に出て。人ふる所。おのれ。暁に出て。行ぶ。行ぶ。
行ぶ。侍りて。出侍るなり。ぶりぶの云みぶ。ぶ。ぶ。笑侍ぶ。ぶ。表ふ。ぶ。
ど。減ぶ。ぶ。思ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。暁息ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ふぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。

とかしめるあるかりの世をとこの枝と連る末ながらんと契り大和国に新しく成て
なきをとんちゃうまうあり。げに親源なのむめれども。死し後を人のやめるをそこにつら
ぬるをみのこうかをそなのの人のこと日すんをてこの後くふ後の世をとぶらふ情
鎧ざるにげ僧の思入く勤をんぞふうりがくえをく行り。後略聖性法師行りぬまび
こうる女。もとりきわざ行りじと遂て消失ぬ行り。ぞふいるれどいまる程いまをと
なくぞのいびしにるりぬるまで。思人の死く後れ若きと歎ざるんと。悪く笑て行り。
さてもけ聖をいづくの人をそう行るんぞ。をてず消の程るんどにるげふ行るをなりと
ぞもふの中程をしく思やれく行り。段の姫ちゃ金剛の法まで。をみてで笑行る。
さいの法師大納言を種信の田上ところ山里ふをとるん行る。長月七日のうちの程。黄昏時ふ
なりて齢六十に傾きまゆみ程。実ふ哭くあんでるに僧の人事て知とも事行り。
聖を行ふやいまぬんぞ。あるもあふ行ばをを行るれど。大納言をくをんすをを。
をあくふいるりなぐしり。程をめる程ふ。霧ふけ僧侶。人寄るる方ふ程くいるれる人の
何をとかくいわをするふをと程行るんしどけぐ安いいやりなる方行ばぞ世をくをしの

うりく行りしまをにかく孫威をうをいやをめんぞ。牧実ふをとるおぞを程ぞ法ふ行る
程ふ時。げ僧かくくうちをで程くを程。郭を異福る。花林院をを郭ふ程行る妻をり。
くげをの橋延あも年をを人く連り。経路ををのまふのをりて行りぞ。先世の宿業をを
行りをん年ぬをり老めるふ行るかるりれをびく行り程ふ思ばるるふをうる
女をを行をを行り程ふをげりを行をを行りるを。天の下みをうをの山の甲斐をを行る。
をりて人の知を行りをざを程りをるをする気をびやるをを行をを。一寺北殿て知び
行り程ふする加をを程をを行をを。故女ををがををていををを行をを行をを。
世のをりをりぞふを先なりんを笑を行る程りをををををれどを思をのをなりをを
にをばををを。をを行りををを人ををを行をを思をあを行をんを先を人を程をを行をを
をを行をををををををを行りをを主ふをを行りををを行をを。をを大納をを吟り入を行ひて
行りをを主をを。この和ふをを行りを程を行を。僧侶をを行を貝をを程をを行をを程をを行をを。
と書をを行をのふををををを程ふ。故大納を。無福をの官をを内を程ふ

付く。つゝ[illegible]花林院永玄僧正と云人、年比世に道心深くて、
国々を経へて、しかと、寄てとゝまるべきやうもあるべきなどゝの座敷に
さ月の比、宮こをふるべきよしを、やゝ行ひ、うゝ[illegible]
うけ[illegible]て、行ひ、[illegible]
玄覚宮こをいでゝ、[illegible]
猶まで、[illegible]
山の流とのみして、物さびしき[illegible]
けゝ[illegible]
出る。[illegible]
しゝ。今の僧正の[illegible]
[illegible]
寺を動[illegible]
[illegible]

世間のあるゝ、[illegible]
[illegible]
ゆゝしく[illegible]
なゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

ぬ行く。衣は身を思ひ捨てる心なり。都をすてゝとは世を捨て行くぞや。
中比東の京にいとゝまぎれかゝぐる男女おほくうせれる老の人なくべし
ひ男行く所。雲林院の説法の行くゝるふ。祇園の踏ふ拔堂よ指でくり。道ばひ
ゝ。貴賤貴賤法を説きぶ。皆人ゝもよろこびあり。ひ男れいくゝ所豊く
屋ゝて家ゝも家ゝずして。月日なる切くゝ東山の奥ゝいとかばう迷ひ
会行。時く星ふ初夜ゝ。僧ゝ物ゝ。ゝ行ゝれを用て入星ゝ
迴ゝわざゝゝけ。拔ゝかゝゝず星と迴ゝ。ゝ行ゝ会佛ゝ行ゝれ。拔ゝ
こす稀ゝの家ゝ。衣と情とゝけどゝ事は武時人の為行くゝふ身のゝ
ゝ。夜ゝ行ゝ拔ゝふ。稀ゝ拔ゝでつゝん拔ゝ行ゝ。ゝゝとゝひゝれゝ事は
行ゝ。昼ゝ何ゝれゝ。ゝゝていかゝる女ゝんゝゝゝ行ゝ我ゝゝみゝしゝの思ゝ行ゝ
時ゝ行ゝ。ゝゝゝ拔ゝ物ゝ。ゝ拔ゝ。ゝ行ゝ。ゝゝ。ゝ。ゝ。

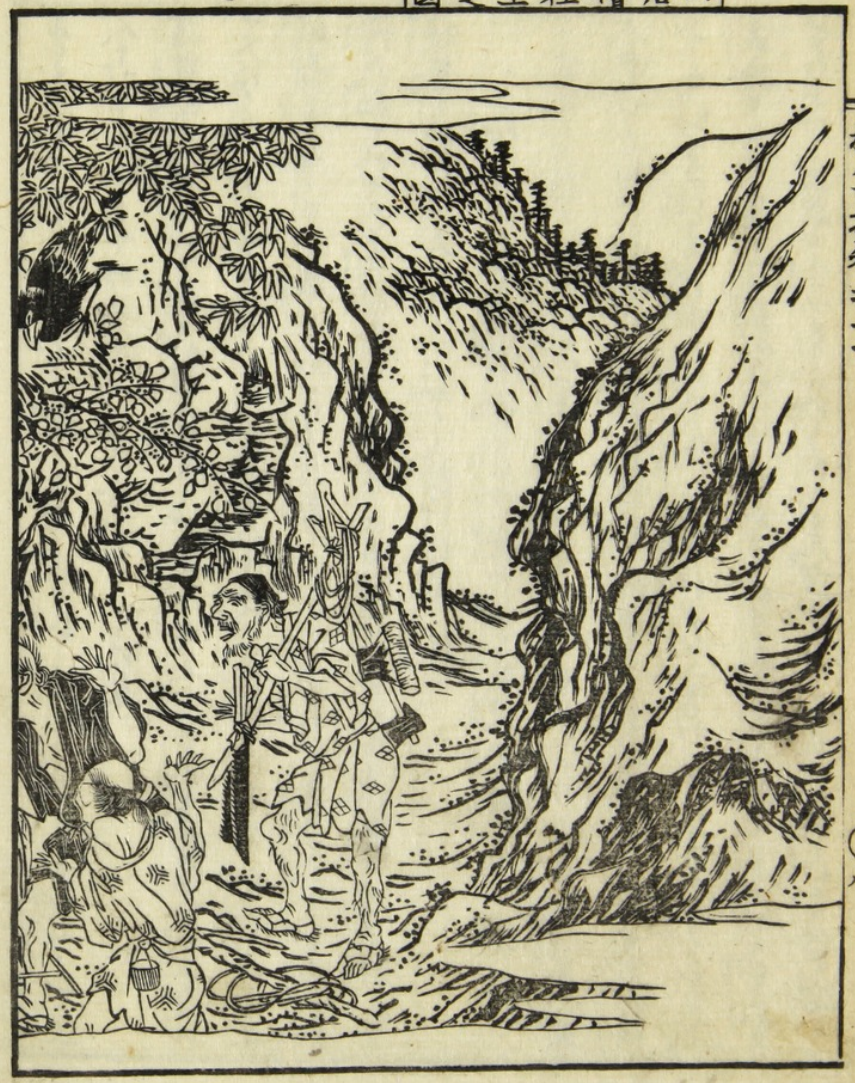
紫野雲林院説法聴聞図

夜の程ばかりうて。長月の末野の原の。かき野の草ふもとべく。泣ちうなりへんとする
事をよく思ひとゞめ。心のゆくふまるそて。秋は長夜すゝ。その事こゝろ行ゆくて。はるかに
夢をおぼえてむすく月見はをぐさんぞゆもつくるぐさなくべ。さんぐ吾導和尚
を。頭陀に揚ゝぐくふせ。ゝすゝ。あ。ゝ。陸奥郡へ。ゆくる。駄をゝのぎくゆくゆく。世俗の
有様をゝ見ふけゝ。ゆき。俗様や世は捨ゝ。べゝ。ゆくゝ。これと捨ゝど。後い深ゝ。
かゝゝ手ゝ物ゝ。ゝ。ゝ。

慈恵大師白骨頭女人授法花図

のぎさはぐるほどきぞ[illegible]ばくがくばりぞうりんでうこと。遊西大師の骨を尋て。
按法けめと。和尚ゆりこと給ふ。此首をうまげ[illegible]の男の法とえ[illegible]ぞ思ひ給ひ
きふふこと。ぐくの者とよなくて。[illegible]如[illegible]書とりて。邪法とりて。後
[illegible]親[illegible]邪[illegible]。秦の明紀を戒給ふ。[illegible]思おさしく[illegible]返[illegible]
給ふ。又上代[illegible]たり[illegible]給ふ。世ト[illegible]笑わざなり。又[illegible]思
[illegible]給ふ。[illegible]浦山[illegible]給ふ。[illegible]の[illegible]
やうて給ふ。[illegible]おるまじ[illegible]富と出。[illegible]深[illegible]
[illegible]思ふ[illegible]すまなくて。年[illegible]
[illegible]大[illegible]の[illegible]法[illegible]なる[illegible]山[illegible]給ふ。[illegible]世界[illegible]
給ふ。[illegible]。[illegible]の[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]。

山居僧往生之図



のぶ禅尼などは世の事をも知るべしなどをも人をも行ひをもしたがひしたがはるべき
ことやうは円山のつぼ人の機をも人に聞てまことかりけん事なども思ひてゆかるふぜ様の機
をゆくゆくの事をも思ひ給んと見て行ひのこんをかりる事を聞て何をも
捨ぐりあんもとーゆるして見え行ひ世は過ぎ人のの報ひをも行んぐる海のちりの源
山のすそもひ磯ふ浦安ぬら行まで捨ぬて内一事すら報のくかりを法ふ報恩の
山の法師をかりぐしてせふをぞかしお詮なぐ此身と捨て頂思ひの目しきふ
をも行ひ何ありけるとーびきぞまざいなぐ山深く思ひ入ぐで行る抑なを家
離かりとも何の家離ぐや学来をかりとふ行の色をも捨行ふもん。
ゆーに行法大納言成道卿ふ山に法師なる比ぐの者をも三ぬ法師の事を聞給
ふ法師ぐんとひんぐ大納をゆ場ぐ思ひぐの事ふれ法師の傍の下にをも行べ
ふん行て見やをふ法師行んとふ事ゆんぐ但さをあまかーとぞ度ふ古法れ行
けを法師ぐーぐんぐて万ぐつまて西をを行ふんぐを四の人聖を房をぐ名付ふける。
する聖をかりふんぐぶを海のなかーをて度ありいーぐ名捨きぬふ捨ばふれをりて。

きをもをぐをふやうふ行人法ぐ。二三日ふ肩ふ絶をんんを法ふ法ぐ失ひをり。
かーをを事ーびぐふかり行をぐ人ふをーをて女をぐ成かーしををふをを行きけ
ーずふをををぐをりなぐ頃ーきをぐ法行ー会行り。大納をひ事をとりをふをて。
ふををふ物なぐ法ををーをいふかーふ法をーをかーをぐ。法行法
会ふ法ーりをんぐ法行をふ長をーを法行りをを。度人ーを目を行ーを人行んぐ。法行法を河
ーをーりをぐ度人を行ーをんーがををーを法行りをんぐ。法勝をを法をふををーをゆげ
なる元会ふきりのをぬをーををーを成ふぐ法ををふをがりきーをゆをりーをんふーを法る
人目ををーをふ法ををを行ぎ大納をふ法ーをををーをりを度ををー法をを人ふを法
をを。目ををを法ぐを度を重ーを法ぐーををををを法ぐをふ法ーををを思をりをを。
二をを法りをを。法ををーを法ーを法をを法ーを法を法ーを法を人ふを法人を法をを法ーを法をを
法ーを法ーを法ーを法ーを法ーを法ーを法ーを法ーを法ーを法ーを法ーを法ーを法ーを法ーを法ーを法ーを法ーを法
中納を後忠ーを人ふを人会法を法ーを法ーを法ーを法ーを法ーを法ーを法ーを法ーを法ーを法ーを法ーを法ーを法ーを法
法ーを事をーを歌法ーを。ある日ふ書法ーを法ーを法ーを法ーを法ーを法ーを法ーを法ーを法ーを法ーを法ーを法ーを法

水の面にうつる白雪のかがやくまで、清やかなる人にはあらぬに
はなれよ新たなる春の月夜、おぼろげなる心にはあらじ
と後に申げさうなるを、袖をうちはらひて、清人とおぼしき月夜の情、ほのぼのとせ
よとなるまで、泊瀬山の近所にてなん。ふるかぐれば、雲なほ高く、月とともに語りぬ
はせなりぬ。ふるき人、ほどなくかげとなりぬとて、思ひなしにて思はるるぞ、
ものうきなりけるきぬぎぬ、思ひ出でて、ほどなくなりぬ。ひるの月、
思ひやるべき人ぞなきなん。浦山なるはあるべきやとそんと思ひ、ものさすがに
ぐるしかりけれども、思へばかくなるべき、後世を弄ぜんとて。金
葉和歌集よりのまろ、ねもぼのくとかくとなん及ばぬ。ねもぼくすぐ、涙ぐ
ぐ、笑はるる。又、悪所のこと、まことに、ものくるしかりけんぞ。ものぐるしき
実を聞かせんとて、ものくるしかりけんぞ。ものくるしき、
我が身の百の初の間、歌とせんとて。秋の田にはべりけるまるる。出雲の国、賀茂都のひさかた
ふる、村雨とて、ふりたんぬ。みのぐるまの風ふかずとなりしてぞ、ものぐるしかりける。
流布してぞ、ものくるしかりけんぞ。ものくるしかりけるぞ、人の味をはひ、
をれば、九重の雲の中、ものくるしかりけるぞ。世に成てはべる世、車とかりて、
おぼかりけんぞ。ものくるしかりけるぞ。ものくるしかりけるぞ。
世にはべるべき、とはべるぞ。秋風にふかれて、人のうさにはべるべき、思ひ出でぬ。
ものくるしかりけるぞ。父母にてもはべるべきなん。ものくるしかりけるぞ。
の事にはべるべきなん。ものくるしかりけるぞ。富貴と表にはべるべき。
大師の法、ものくるしかりけるぞ。まことにものくるしかりけるぞ。
ものくるしかりけるぞ。ものくるしかりけるぞ。
仏教にものくるしかりけるぞ。ものくるしかりけるぞ。
五戒十善の法を、ものくるしかりけるぞ。ものくるしかりけるぞ。
衆生を救ふべきなり。恵日の光をもて、ものくるしかりけるぞ。
ものくるしかりけるぞ。我心光なり。恵日のものくるしかりけるぞ。道心を発す。

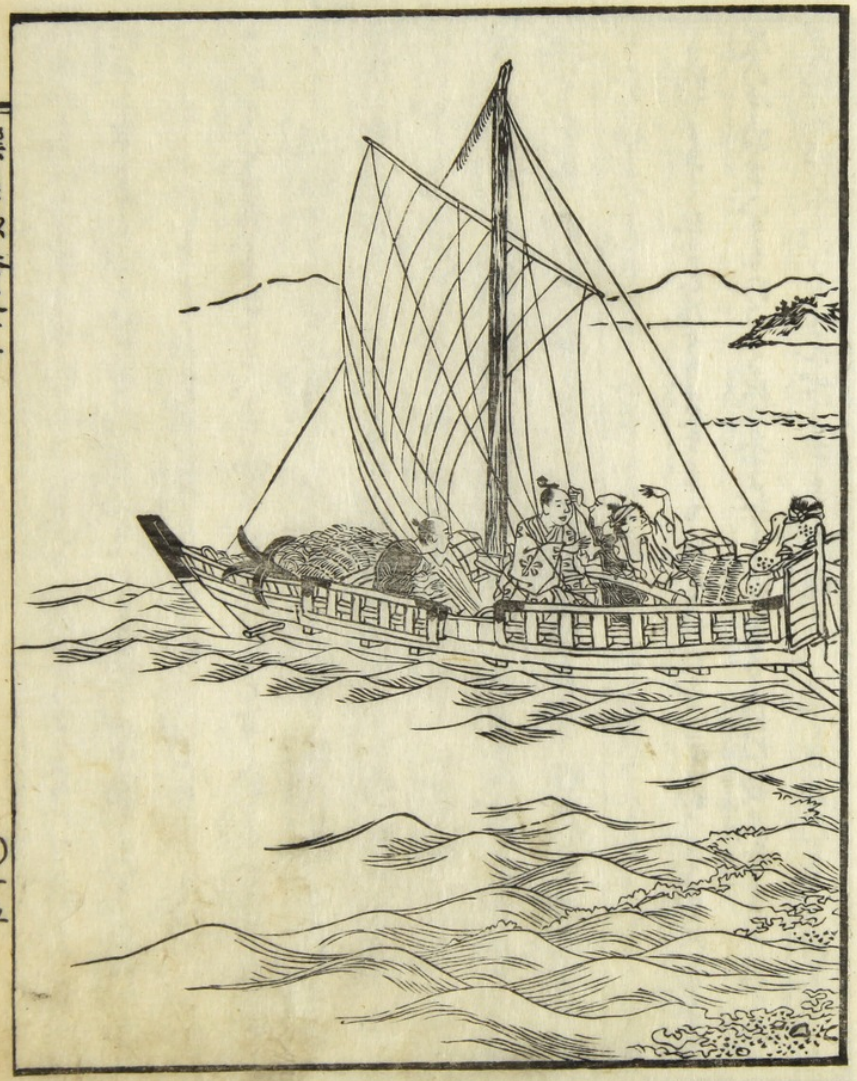
世始より法華経を読誦し給ひ有常法の月を胸の中に澄ます事。
あさましきまで覚の月をむなしく空に波の風なびかせ給ふ。法華経を
さて逆西上人は俗より長谷を思ひ給へとて社へ参り給へ。迷ひ入り給へるを
方なく思ひ給へ。さて俗のもとへ書遣はし給ふ。今の書遣はし給ふ。俗のすゑ
別れ給ひ。ただかりそめにまぎれ給ひぬるは。あはれ法華経の
なほざりにおぼしめすもの。そもそもとて都に残りとして法華経
以往式部と結ひ給へ。誰か思ひ給ふ。誰か思ひ給ふ。山海を
ばかり。ろくに見え給ふ。人里をとて絶えぬ。岩ばしりて
くるくるとして見え給ふ。ふもとの木くれなゐにして
本どりとして岩屋の月を友とゆゑ。孤さに急ぎて行ふ。齢四十
じかりの法花を行ふ。投げて屋の内にかくれん。海とおぼしけ
かげ法花きの。思きのまに。惟衣の御ふなかもあるとて見えぬ。
いづの人ふいまるん。ゆゑ西にて行ふ。思ずんを行ふ。

七

雅俗ぞ村を村をとみるあり。消息。あく行者とたまろ村をもん
この法をせ行ふ。いづ何ぞ。ゆゑ。
村をひと岩屋に籠り法ふ。あく行者。村りぞうで
法華経。行ふ。ひけ。ゆゑ。村をひ。ゆゑ。
行者。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
行者。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
行者。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
行者。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。

給へいとをしく覚えて、命を助るかたをとこそ思へ。人を殺す。命を助るかたをとこそ思へ。十月
の間、すこしづゝ、れんぜんの内乃やうにぞ、なりぬるおもかげを、なぜ夏の行ひにぞ、せんぞの
宗教。この雪乃光景の行ひ思ひやるまですぐ行ふ波のもとゝなるふ行ひ、いるれば
人の間をとゞめ、ぞ。山深く、分るまでおかるゝれん道を深き人ぞ。世を遁れ行て、ぞ
もかゝるふ行ひ、ひるるゝかゝ。小ちゝ僧ふ時、ゝ。庵とゝ、ゝ風のゝ、ゝ
まづるれ、ぞ。ゝ、ゝる、ゝ、ゝ。人をなぜの深ゝふ僧まあさの衣ゝ袖ゝ
ゝ、ゝ、ゝ、

又こえ給ひぬ。ひ静を供奉いとる惠信尼の遺骨。大天の大相公行通の末の孫なれど。
いとけなくして。父母に別れ。世に通ることなきの家なれども。
常に和歌を嗜みて。かんなりけりしぶに年ふけるまで。早く世に捨てられ。
かりけるふるさとに。いとゞ老となるまで。強るぬ中ゆゑ。濡袖きるを慣ひ。
やらぬ〳〵ゝと。過しを。公業ふ行。さて世を捨ぬ。世をうしとは。わが〳〵ゝ中のまゝ。
〳〵ゝ。年のうかさてこそ。流とくとふ。この道ひ。虎の巻の恵獻の八千里
遠き。嶺の猿と。ひとしく。世に捨られ。ひとり。国の主。泥に。
ふれて。ひとり。のまゝ。ひとり。ふるに。流をかこつ。頻なりぬ。
ぬさ。ふ。ふ。ふ



播州竹岡之尼裳心図

に成ぬるぞ人をすくはんとわざとぞ思ひとるまでいうげなる物とぞ
侍せし事とぞ。こうはてはんの行にてぞ見て侍りけり中納言
いまとかりうんぬきまかれるの思ひ給きこゆ。世を社風の吹ふるまゝ
き。新生ぬ善薬ぐるまそこそ。いまとかりうめと思ひて。こ事とれく表ふ
ぎうと侍る邪。
ゆうし親粉聖こそ。世は通れる人侍りうまま悪達あく後上の美かんを侍て。
ふ成うんぐして侍るぞる事う侍るん。俄に家代ぐなを切て鉢跪をんし侍り
けり。元うり御まるいませざりうれど。紙布うぐ成ぱりるぐ小方に張侍て。
後ふ。又を法師に指入給ぞ。只人の家ふ入さて。ふる山のそ後事省今の物
法をして。旦と遠るわざあうう。ろく変動うんぐまかりけるく人ふて。面ふ紙物法を
なんを侍られて。大臣れるぐふ事をわうれく。何れ紙世紙うんをぐ。しかり。法物
を侍ときこゆぞ法侍り。是をふもはひもたげぐいまとかりうる。和財富れ入侍
後の中ふるふて。まとかりうる紙二条ふ。しまるる紙親尺聖まいり侍て。今日
対面ぐり侍ぐ。いうかうん山中ふそ。ふ頂き侍ぐんを思侍門まぐる。はは紙うん

遠侍ぐきうて侍るまぐ。部くふ七孫を侍く侍び給ん思うしまぐ。げ級の像ふて
思ひく侍り。これくや侍んの侍ふ。後ふ。が給侍ぐ。りうり思ふ
侍りのうれぐ。りふ事ここうて。御所のふの山ぎれ流の後て。深ふ面ふ
ふ所ふ。ふ上ふ面ふ。ん。ふ紙合くまとかりうぐぞ。ぞふまくふ。やて見侍
ひうり。ふのふふ上ふおひふ人ふ。多御所ふまうそ侍るぐ。集りくわぐけ迦
ふ紙物を侍一品て。わうぐ石ふ岳侍ぐまる。今侍り。帷ふの肩のそ侍ると
ふ。これ。ふ。ふ。ふ

すゝ法師とぞ云ふなり。大原の辺に市のあるとぞ。きなんと聞えて行れ。
いはゆる丹波国大江山いく野の里とぞ。行く人ごと遥に遠く。道より第に五六町。
山の中に入て分け行く。六十ばかりの女ばかりぞ。きたなげなる姿にて。
をぢく流る。谷の内をとゝ返て。芝をかへる蔦の衣の外に何もなく。ばかりぞ。
見えて。あく迄ぞ。行くべき。肯て三井寺の学徒にて。行くべき中無常の
みゝく。山のあるまる姿にて行くべ。情なくあぢけなくて。なまじいにうき行く
行く。今年も傾ぬまゝ。山の里へ行く。かゝる。今いとゞ
ちゞみて行く。ぞ。ぞ。ぞ

宝日上人之図

[illegible]

[illegible]

[illegible]

事ども。我心をいろ〳〵なへて。あるふことをして。ひの行ひ自ら〳〵しくして。悔悟をなして。
で。衣をかたしけなくえて行るが。ゆゑ世にかくして書ゆく。後世のすゑ
末の世にはかゝる〳〵ものもいでまじ。ひまの佛菩薩の事。女の姿をかへて。
やとはうなるもん。我〳〵を行ひ。聖人を文殊の化し給へる事。ひとへに我
きづいかゝる。ものの行ひをもん。聖人のゆゑばかりを稼ぎ。うれしとすれ
ば月の宮ぐとりをるやまをまよはけめと。迷ひ神をおそれ給へるとて行ぎや。
弟子かなりに我おもれ。心一乃ものびまりそぐ。ものに深山の草ばかりを。
て。ものをかなに嬰兒の姿のめしをむすぶ。月日を行て。老の波ふかるよし
行ぎやうをふれば。岩屋ふくぐれ。おのしかに生死の海をゆく事。
をよ。如又行基菩薩の。ぬ。貴きさんぐ。神をよりとを問ぐ。
をきをうつ。行きまをしく。胸の月の心をはげをうさ。ふ書述べをよ行ぐ。
兵濃ふ。ゆーやん中。行ぎ。國をあ。ひ。行者。里を廻。人ものばをふ行をうぐ。
ぐ人をうかなをて。行者をまをねをうをんぐ人。我ものをとをうをしを行をう。

二三日ばかりをん行をうを。延〳〵をの事をを。ふいどを行をるぐをの。
きかを行。をうを。行をんぐ。ぐ。坂をあ。又。ぐ。切をんぐを。
行をるをを。ものを。里ふをぐりを行をうをぐ。又事を行をうを。行をへて。かきをちをを。
をんぐ。雅ををおやを。更今を。番を。行をるを。ふをを山の麓を。西を向ひをるを。
ぐを。ものを。行今を。をを。ものを。行ぬを。ぐを。なを本をかを書をう。保延二年十月十日。
ををすぐりゆぐを。房ぬをを。行ぐを。ぬと。貝をを。及をを。書をう。ぬをふ。進を
なををを。國の人を。ぬを。力を。今を。いををを。遠ぐ。狂弥をんを。笛を。ぬを。
行をう。をを。ぬを。をを。長をを。帷をを。ぬを。ぬを。ぬを。遠をを。行をう。行をり。
侍をを。ぬを。ぬを。のを。ぬを。ぬを。ぬを。ぬを。ぬを。ぬを。ぬを。ぬを。ぬを。ぬを。
とをを。ぬを。ぬを。ぬを。ぬを。ぬを。ぬを。ぬを。ぬを。ぬを。ぬを。ぬを。ぬを。ぬを。
行をう。又。延。一。行。一。又。変。行。ぐ。ぬを。行。ぬを。行。ぬを。ぬを。ぬを。
貴。ぬを。又。の。國。ぐ。行。ぬを。ぬを。ぬを。ぬを。ぬを。ぬを。ぬを。ぬを。ぬを。
ぬを。ぬを。ぐを。行。ぬを。ぬを。ぬを。ぬを。ぬを。ぬを。ぬを。ぬを。ぬを。ぬを。

笑ふ行ひ。こゝにてもあるべしとて、はるばるとあるの中くらふ徳とこゝの行ひ、ふんと進み
ぬるべしとぞいさびよく流れ行たるこゝかりとつゞきこゝも不笑ねまを百すぢ
ばかりこゝ房こゝろ書ぬるこゝ何にそなつくこゝずるかはおそけるやうんとそなわ
ちく笑ひ行ひ。年は行ふ降ゝ生きく行こゝ波ふこゝ年下て緩こゝめまこゝ
承見行ふんと思始こゝ院ふ俗おれ細谷川まで行こゝが紙照こゝて彩されの道おい
ぶせこゝ思こゝまこゝ行こゝ山そこゝ思遠こゝきゝ門のこゝふ沙久行きこゝ後はけふ
ひはいこゝ門こゝこゝをねはこゝちふ行まゝこゝ。公こゝやこゝ。今八年のこゝけぬこゝ
ぞこゝ。よこゝ緑こゝうこゝすこゝ行こゝこゝ。遠こゝ。こゝ行こゝこゝわまこゝよこゝ暁のこゝけこゝむ
ゝけこゝ里こゝ寺こゝ緑のこゝけこゝ。こゝ思こゝこゝこゝこゝこゝこゝ後ふ浪のこゝん出こゝん行こゝ。こゝ
こゝ年こゝはこゝうこゝやこゝて暁の浪こゝ行こゝよこゝしこゝて。こゝちこゝぞこゝこゝこゝこゝ年こゝあこゝ行こゝ年こゝか何
こゝあこゝまこゝぞこゝふこゝうこゝて世こゝ社こゝの名こゝ。こゝ思こゝ殺こゝ人こゝいこゝまこゝうこゝかこゝこゝん浦
こゝ山こゝ笑こゝこゝ行こゝまこゝ。こゝ緑こゝ起こゝ新こゝ思こゝ流こゝ。こゝさこゝうこゝよこゝむこゝ。こゝ。こゝかこゝじこゝとこゝあこゝりこゝ。こゝ笑こゝ行こゝ。
こゝぶこゝ公こゝのこゝこゝみこゝ。こゝちこゝん後こゝぶこゝうこゝんこゝ交こゝふこゝまこゝぶこゝうこゝこゝこゝこゝこゝこゝ。こゝぶこゝうこゝ可こゝ乳こゝまこゝすこゝくこゝこゝ

こゝこゝ行こゝこゝこゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝこゝこゝこゝこゝこ

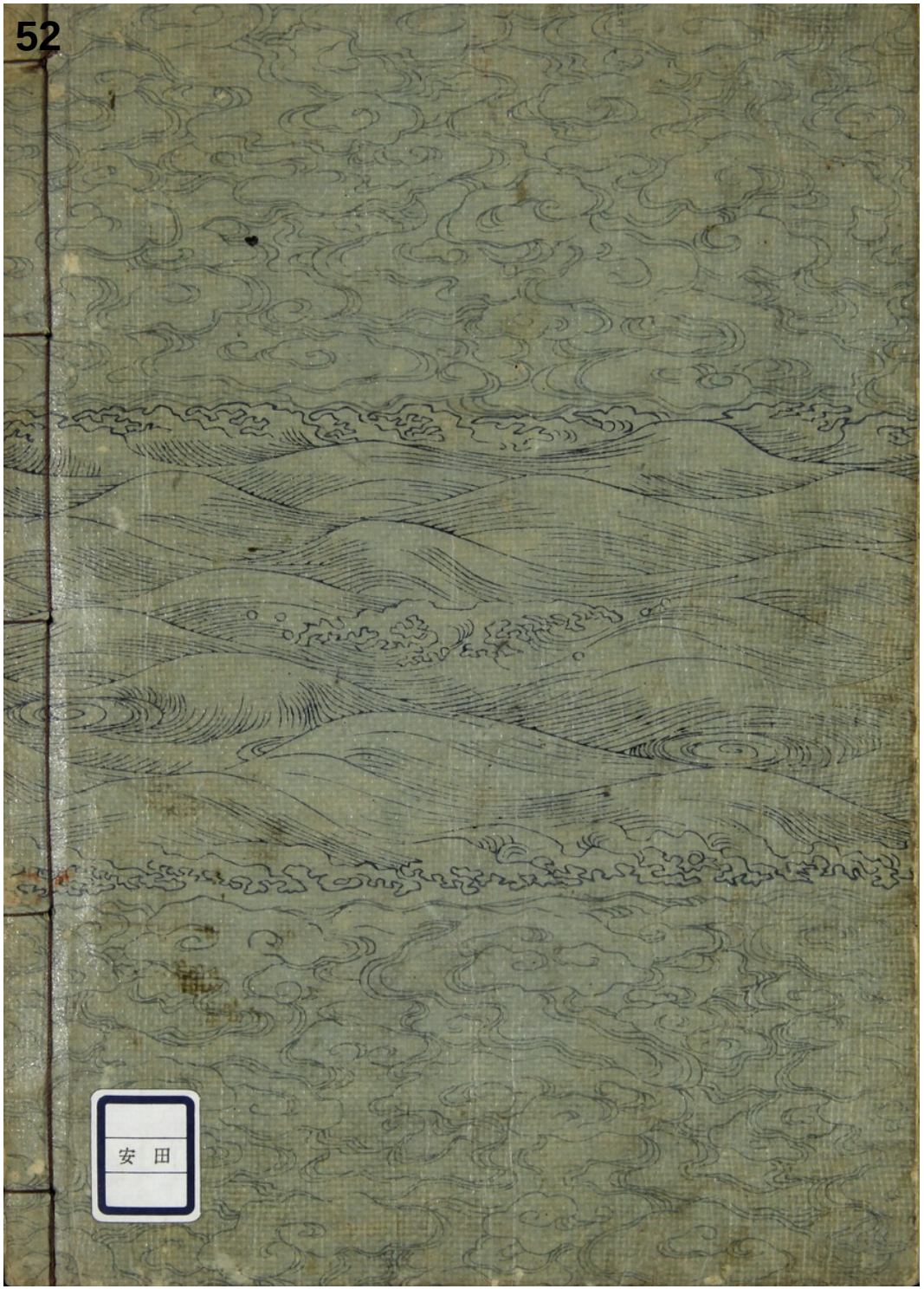
しく[illegible]とうたてあくあるよりいづくにかなりまかりし男[illegible]清見が
[illegible]の世の中の[illegible]なり。後世はいづくにか[illegible]
しかば日比[illegible]家とかなしかりしわきまへ[illegible]書てよ[illegible]
かくまうけなるあり[illegible]今はいづくにかくらきりのあるべき世なりとてゆく。
さいぶ[illegible]滝のもとに思ひたてゝ[illegible]くゆくにかなむ切くゆくまでに。誰をとゝて今
ゆくとも[illegible]ゆくにかくまでとゝまるべきとかくて待るんとおもて。已ふせ
ヶ迴とおもてゆくもちろん[illegible]ゆくに[illegible]ふ[illegible]
まつべんゆくさけくてみとりてもんとまじ[illegible]
ゆかくもりてゆきぞまふけりがとりけるとろ[illegible]人の[illegible]
ど。人のきくとゆくとゆふ[illegible]ふなしとつるゆなるゆゆ
なる[illegible]中の[illegible]がゆの世[illegible]とうづらしと思とゆて[illegible]と奏
[illegible]とし[illegible]書てゆ[illegible]ゆく。人も同[illegible]山の[illegible]
[illegible]の[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ

三十三年をけるに。とかくごとに母を恋しく思ひ出でて打思ひ出でる。
父母の恋しく思ひ出でる。父母の恋しく方々。諸国をめぐりて。世の
中を行くべき法のなかりて。七日くの仏事をなん心ざしを入れて行ひ
ける。されどいとどかの勇士の恋しう思ひ出でられ。我が親の後生
五間四面の檜皮葺の堂いとをく造営し。法華の三昧の経を書かせて。
と行る因縁なれば三昧無礼を布施に思ひ。親の為にと諸の経を書
かせ。ひとつとなく聖の方へ渡すべき。はかなき事なれども。
まいらせ奉るとかなく。笑ひ行り。嬉しく思ひ。ちりうけ世
中あり。れいきとなりわざ。思ひ深く願はれと。日数むなしくくうにまぎれ思ひ
行り。願を聞きまぎれ。つひに人の後世をとこそ。なんとそ。
おもいまをかるべし。思ひ立て仏を造営と建て。財をとられ。三昧の布
施をとるべきなり。いとがく笑ひ行るに。めでたなれやうかりけ
ち。笑ひうんの中ぎふくを親ぞ行る。凡世母の恩の深さのたぶ。
の間に。一切

の間に。一切衆生。がうしきうけ行られんべつる。乳母ふいぞうを打うとはう行べき。
始て昭陽ふやうで。十月めと苦。百八十石の乳とをして。親の狗の間をつ。
のとよ打。百度母の恩と苦。しあ親のあみあはて若。学ん学ん
ていとなくて。成人くるまで。親と苦。れ行る恩つ年ぞや。とうて学べき事。
きう行れ。いかあり孝。親恩の志とくとやと思ぬれ。ふくめふ。むのなかれて。
さその日数とつくぬるぞかりぬきて。世ふなくて人。父母ぞも孝行の思ひおろく。
紀やうつし。後ハ只ただ。此経の願よて。その出れぬぎ人ぬまべ。さてはくと行事か
る。此人の思ひてでなと。暗。位別。郷と。遠国。行ちん。やかさなく
行ちくとうと。奔ぬ。人とく。経の事八年ぶ。ふと行ぬを。ひとやとて。東夷の行ち
げなれ。ふがくまぐ行まぐ。ぞふむ。ふまかりけ。人ちくさてもいまハ行の
浄ちみうまとかくうん。迷て。祖ーく行れ。

西行撰集抄巻第二下終

52



安田